

未来への貯金

大田区立蓮沼中学校 三年 篠崎 美結

「税金とは。」作文をかこうとしたときにまずこの疑問が出てきた。私
はこれを機に税金について色々と考えてみた。「自分自身が払ったことが
あるものは何か。」浮かんでくるのは消費税くらいだった。しかし、税に
ついて、調べてみると自分が思っていたよりもたくさん面で税金が払
われ、使われていた。「税金って何ですか。」皆さんはこう質問されたら
どう答えるだろう。私が税金を日常生活で感じるのはい物に行ったと
きに買った分より少し値段が高くなっていたり、値札に「税込み」や「
税抜き」と表示されていたりするときだった。

そもそも日本には約五十種類の税金がある。私達が払った税金は学校
の設備、教科書やゴミ収集、予防接種など様々なことに使われ、調べた
らキリがないくらいだった。そう考えると「もし私達の町に税金がなか
ったら。」現在税金が使われているものがないと考えると学校の設備にお
金をかけられず、教師の数が減り、勉強する所が今よりも少なくなって
しまう。また、「ゴミの日のたびにお金を払わなければいけなくなる。医
療費が高くなり、いざという時に病院へ行く人が減少する。道路の整備
がなくなったり、消防車が来ないため消火が行えなかったりするなど税
金がなくなったら物を安く買えるという考えがある中で、「もし税金がな

かったら。」ということをしっかき考えてほしい。住みにくい町どころか
危険な町になっていくだろう。私は調べていて税金の及ぼす影響の大き
さに驚いた。日本国憲法第三十条「国民は、法律の定めるところにより、
納税の義務を負ふ。」という決まりがあるように納税は義務になるが、義
務としてではなく、自分の町と自分の生活のためという考えをもつこと
が大切だと思った。

また、選挙権を私達はまだ持っていないが、国民が選挙によって選ん
だ国会議員、市区町村や都道府県の議会議員が話合って税の使い道を
決めている。納税金について予算案を出し、決定するまでもたくさん
の人を通すなど時間がかけられていた。私達も税金や国のことについて
知っていくことで政治に関わっていると思った。

そして私達の住む町での予算額から一番多く使われているのは高齢者
の方や障がいのある方への福祉金だと知った。私達が高齢者になる頃
も税金という制度があったら自分や他の人へのための未来への貯金だと
思っって税金を払っていききたいと思った。

私が今回知ったことは税金についてのごく一部だと思う。「税金とは。」
という最初の疑問から始まり身近な税について知れた。税金は私達の生
活と関わりが深い。私達が払った分だけ、自分達の町も充実する。自分
のしたことが巡り巡って自分に返ってくるように町と税金と私達は循環
していると思う。そして、これからも豊かで安全な社会づくりに貢献し
ていきたい。